

2) 「アジア地域の植物バイオマスを活用した循環型材料の開発 ～タンニン・スクロース接着剤を用いた木質成形体に 対するクエン酸の添加効果～」

梅村 研二（京都大学・生存圏研究所）

1. 研究組織

代表者氏名：梅村研二

2. 新領域開拓のキーワードと関連ミッション

千年居住圏

ミッション4：循環型資源・材料開発

3. 研究概要

縮合型タンニンは比較的反応性が高く、接着剤原料として古くから研究されているが、接着剤化にはアルデヒド化合物やアミン化合物、合成樹脂などの化石資源由来の化合物との反応が必要であった。当研究室では、縮合型タンニンにスクロースを加えると接着剤として利用できることを見出し、木質材料への適応性について研究を進めている。今年度は、タンニン・スクロース接着剤を用いた木質成形体の作成に対するクエン酸の添加効果について検討した。その結果、クエン酸の少量添加は熱圧温度の低下や熱圧時間の短縮に有効であることが示唆された。